

■■メールマガジン「静岡県防災」第71号■■

～ 東日本大震災から15年 ～

東日本大震災から15年を迎えようとしています。

ふり返りの報道が増えてきたこともあり、震災直後に現地に赴いた際に見た、漁船や巨大なガスタンクが国道をふさいでいるという、到底現実とは思えない光景が思い出されます。

東日本大震災では、津波による被害が甚大だったことから、「南海トラフ地震」が想定される各自治体を中心に、津波避難対策が進められています。

本県では、沿岸部の広い範囲に短時間で津波が到達すると想定されています。「地震だ、津波だ、すぐ避難！～少しでも早く、少しでも高く～」をスローガンに、県民お一人おひとりが津波から命を守る行動をしていただくようお願いします。

今回のメールマガジンでは、群馬大学の片田教授（当時、現東京大学特任教授）が提唱した「津波避難の三原則」をご紹介します。

この三原則の中で一番大事なことは、第一の「想定にとらわれるな」です。例えば各地域で作成している「ハザードマップ」等に記載されている警戒情報は、「あくまで予想」と考えること。相手は自然でありどんなことが起こるか分かりません。自分の居る場所がハザードマップでは安全と判断される場所であっても油断しないことです。

第二の「最善をつくせ」とは、一時的に避難した場所が決して一番安全な場所ではなく、その場所に留まることに固執せず、より安全な別の場所に避難できるかを考える、そのときに出来る最善をつくして避難行動をすることです。

第三の「率先避難者たれ」とは、通常私たちは「自分は被害に遭わないだろう」と考えがちですが、この考えを排除し、率先して避難することです。「想定」に頼らず自分たちで判断するのは、とても難しいことです。

しかし、いざというときには想定以上のことを判断しなければならない事態が起こることを考えておきましょう。この三原則は、地震発生その時、沿岸部にいる皆さんに実践していただきたい内容です。15回目の3.11の機会に、改めて津波避難について確認しておきましょう。

#### 参考情報

- ・ 想定津波浸水域や指定緊急避難場所などは静岡県 GIS で確認

URL <https://www.gis.pref.shizuoka.jp/>

- ・ わたしの避難計画の作成

URL <https://www.pref.shizuoka.jp/bosaikinkyu/sonae/1040812/1029856.html#group1>